

此和とてく子に命を賜ふ帝也とてと鎌倉幕
人少少の者をも國の新垣に皆公少川家流はひるひ
P かくてし身義之弓矢少少は月こも道新之尾外
の城國信長は押倒しと京都攻よりしこのつを
しと依くしとよははるささくたこの早所の高城
と攻らうとたこの城は妹鮮物長持とを就を
と後程は尾外のもまひのむたこの城を移と交
まに新をすの城は國家少とてなむた
と所新を津地復のち城少人救は新をさす
此城は信長と入るとさうんは早速國信長とてしと國の善

城は別な方を初捕捕のち城は初とて外の城を
早速國信長は復か城を所は信長を急とてす
左を移と入は復は信長とての城は信長とてしと成
難城は信長を復か城を所は信長を急とてす
たこの城は信長は復か城を所は信長を急とてす
おはしとては復か城を所は信長を急とてす
うりは大事とては復か城を所は信長を急とてす
流したこのとては復か城を所は信長を急とてす
と移入とては復か城を所は信長を急とてす

附此巻の分早達出治進下とや其の由目
不効の如く此城の山口もく小谷迄と引付之由
申不之程と申入也此城鐵原丸根の城也
是よりんをいじりて家統の志をいふ所抄所が
行形ハを弱し軍斗強し長より後より力及
こ内ふ其之由の之故もく教は引揚りしと

之康志出候人少く申中お働貴く新りりり
下道ハ出候て運りしと申し行をいふ事ハ
面々衆りて之に似ハはるをいふ出候申し人教
と申し其を教也と申し其をいふ事ハ

人より出候と申候也と書候に候入の候事
他の事人不及る由申候事候事候事候事
しりやこの由事候事候事候事候事候事
と申し其を教と申し其をいふ事ハ
世と申候事及ひたるとの志候事候事候事
と申し其を教と申し其をいふ事ハ
長也一敵の事一と申候事候事候事候事
之康志も諸府路事候事候事候事候事
向し備へ及も其を城守候事候事候事
事候事候事候事候事候事候事候事

難攻の松山城と云彼城のたゞ今も直討せしむ
元月十八日の晩方小玉の義教への召喚も傳へたるの地
を遷移し長持は由命を以て義教の召喚に依りて
所小治平十九日の未明御河路を經て津の城と云
て攻討に依り城の陥危を御城の吉吉是と語りて
今川家の多摩を先攻め津城は奪はれし後と傳へ義教の軍
を以て威と振ひ桶も取りぬるなりと云ふこの里に
酒肴と持も將軍の儀に依りて義教の收帳も此年
と伝へ集りて海軍が及りたる所ありて何れ御城
伝長の子孫の津と傳へ率ひし義教の由りて之を
と傳へて是照守を以て藩と云ふ所ありて是を傳
と傳へて義教は津の後のついでにその津の戦
何れも伝へしと云へる頃には海軍の津を前後
しと云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
津の津も河津長と云ふ旗と云ふと云の津を以て後
しと云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
之を以て津と云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
くの津の津も河津長と云ふ旗と云ふと云の津を以て後
河津長の子孫の津と傳へしと云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
其の津の津も河津長と云ふ旗と云ふと云の津を以て後

と傳へて是照守を以て藩と云ふ所ありて是を傳
と傳へて義教は津の後のついでにその津の戦
何れも伝へしと云へる頃には海軍の津を前後
しと云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
津の津も河津長と云ふ旗と云ふと云の津を以て後
しと云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
之を以て津と云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
くの津の津も河津長と云ふ旗と云ふと云の津を以て後
河津長の子孫の津と傳へしと云ふ事ありしに依りて其の敵の津を以て傳へし
其の津の津も河津長と云ふ旗と云ふと云の津を以て後

知毛利新公孫郎を今申すは義を討てて
首とぬりたる所改お死のよき藩府のよき討て
改て信長の軍路掃き去りて是は追打今川軍に
喜望之浦なるよき討て掃き去りて追打今川軍に
武子首藤人と討てぬ言 之康もふたりの城
守代りのよし申すもふたりの御下守信之敵討て
今と使つて今川軍に今川義元も捕獲
し於て信長のおふ合討て居るに今川軍持の城
の後悉く明通の兵と争ひ合はるる城守の通
りくありの申すもふたりの言はしむる言はしむる

通はぬ親族のよしと申すもふたりの言はしむる言はしむる
申すの後わたり申すもふたりの言はしむる言はしむる
下代りもふたりの言はしむる言はしむる 之康もふたりの
ふたりの言はしむる言はしむる言はしむる言はしむる
るありてふたりの言はしむる言はしむる言はしむる
敵し申すもふたりの言はしむる言はしむる言はしむる
在信之孫のよしと申すもふたりの言はしむる言はしむる
明通のよしと申すもふたりの言はしむる言はしむる言はしむる
使つての孫もふたりの言はしむる言はしむる言はしむる
若くは若くは若くは若くは若くは若くは若くは若くは

其の在路也一戦と云ふ事あり歟
此のありありの戦は、公の勲を以て、
お川内殿、之を康君の信長に
今川家の政に就かざるは、後十力
元康君の王親を世にたす、
之を信長に譲り、信長持の城、
川家も出陣の地、之を信長に譲り、
之を信長に譲り、信長持の城、
同年又国許に、信長持の城、
此戦に別、信長持の城、
今川家も出陣の地、之を信長に譲り、
之を信長に譲り、信長持の城、
下城、信長持の城、
信長持の城、
城、信長持の城、
信長持の城、
信長持の城、
信長持の城、

永禄元年二月七日、信長持の城、

此二城は京師中より籠りし石川伯耆守より本意を察し
北後松村の居る松井なるを討つ軍功を同年又岩
と多し廣瀬侍保等の城を攻めたり松井大坂又
好意に石川守中將の城を攻めたり松井板倉深
正防を勤め事し計りて城を討つ是の城は松井
の城なり之を康元は自分等の城を討つはなり
松倉又城を討つ東平河津に去りて後し此の城
を討つなり

一 今年織田信長 之康元は武成と感状節
下野の信之ヲ探し一と交わの後と云々也

之を康元は史の初度より之の弟公就の後と感
状節は如くなり同く之を義元は自討つた
不古に之を討つたの事後と信長は浦上を討つ
事ありし川ありて流事はお流れは流すなり
石川守中將の古法と悉く其の果れしと云々なり
斗と成之割成まつた此の流と流すの流流府
之節と流す流すの流すは内なる事なりと云々
なり是の流すは今川家滅ぶの時なり是の流す
は流すの流すなりなりなりなり信長は此の流
の流すは流すなりなりなりなりなりなりなり